

共通テスト 英語(リーディング)のレビュー

2021/01/19

文責:根本拓海

総評

今回のセンター試験から共通テストへの移行で最も大きな仕様変更が実施されたのが英語です。これまで 200 点満点だった英語リーディングが 100 点満点になり、その分英語リスニングが拡充されたことについてはご存知のことと思います。

共通テストの英語リーディングは、得点や試験時間の配分だけではなく、問題形式が抜本的に見なおされています。問題用紙をざーっと見ると、英文英文とにかく英文…センター試験で出題されていた名物・発音アクセント問題や文法問題が一掃され、6 つの大問すべてが読解問題となっています。しかも設問文も全て英語。恐ろしいですね。

ではこの問題形式の変更によってセンター試験よりも圧倒的に難しい問題に仕上がっているのかというと、実はそうではありません。共通テストの英語リーディングは、問題本文をすべて読まなくても回答できるような設問が多くを占めているからです。リード文と設問文を読んで、設問の答えに対応しているような箇所を探し出し、そこに書かれている情報から選択肢を絞り込む、という回答手法で“大抵の問題は”解けるようになっています。

ここで“大抵の問題は”と表現しているのはなぜかという、この手法では解けない問題も中には含まれているからです。リード文と設問文だけを読んでも、一体何について問われているのかわからない、という問題については、一定程度の時間をかけて問題本文を読み取った上で設問に取り掛かる必要があるのです。

このような仕様になっている共通テストの問題に対応するためには、大問ごとに「問題本文を読み込む必要の有無」と「設問に対応する箇所の検索」が瞬時にできるような、(選球眼ならぬ)“選問眼”を養っておくことが不可欠である、ということがお分かりいただけるのではないのでしょうか。この“選問眼”は、問題本文中に登場する「設問で問われている内容の類義語や反意語や同意表現」にも気づくことができる実用的な単熟語の知識や、文構造を速く正確に読み取ることができる英文解釈能力、設問で問われている内容と一致する情報群を選び取る情報処理能力をつけることによって養われます。具体的に必要とされる学習内容としては、一般的な単熟語の暗記に加えて英文解釈の練習をある程度積んでおかねばならないでしょう。また、このような“選問眼”が求められるような問題は従来のセンター試験や私立大学の入試問題では出題されてこなかったもので、共通テストの試行問題を繰り返し解く以外に実践的な練習方法がありません。強いて言うならば、TOEIC L&R テストのパート 7 の読解問題(特に複数の文章や電子メールの内容に目を通さなければならない問題)は“選問眼”が求められるので、TOEIC を受験する予定がなくてもパート 7 の問題集を購入して解いてみると良いかもしれ

ません。

しかし、ここまで語ってきたような“選問眼”を使って具体的にどのようにして問題を解いていくのかということについてはなかなかイメージし辛いかと思われます。そこで、私が実際に令和 3 年 1 月 16 日実施の英語リーディングの問題を解いている最中に脳内で考えていたことを言語化して紹介していきます。お手元に問題をご準備の上、お読みいただければと思います。

大問 1

問題文ではなく設問文を先読みする。疑問文の場合は聴かれていることを把握し、その“縁語”を探す。例えば質問内容が“request”なら、本文で何かしら“依頼・おねがいごと”に関する語や表現があるはず。単文の空欄補充の場合は設問文の主語を本文中から探し、その特徴等の情報をとりあえず仕入れて選択肢を絞り込めばOK

大問 2

A 問題はスコア表、各審査員の講評、総評と 3 つの情報群から答えを探してこななければならない一見大変そうにも思えるが、小問ごとに注目すべき情報群は決まっている。

問1だったら「いちばん歌唱が良かったバンド」を問うているのでスコア表を見ればいいし、問4も総評の内容についての設問だとわかる。問5で順位付けがなされていることがわかるが、順位については総評の後半部分で言及されているのでここだけ読めばOK

B問題はメールの送信と返信が示されているが、設問を読めばそれぞれ Ken の意見、先生の意見の根拠についての設問だということがわかりやすい。最後の小問だけは本文をざっと見た限りで Ken が何かについて調べようとしているということが言及されていないので文脈を読み取る必要あり。

大問 3

大問3は設問文だけを読んでも何を訊いているのかわからない。この手の大問についてはざっと文全体に目を通す必要がある。この取捨選択が大事。

大問 4

表とグラフの内容と文章の内容を組み合わせた問題。センター試験にもこの手の文章が出題されていた。

今回の大問 4 の場合は設問ごとに問われている内容がはっきりしているので、電車の時間に関するこ

とにだけ目を通す⇒最終的なスケジュールに関することにだけ⇒lunch という単語を探す⇒交通手段を使うとか使わないとかそういった話をしている部分にだけ注目していけば問 1～4 は解ける。問 5 だけは本文中で直接言及されていない事柄を選ばなければいけないが、どういう施設に行くのが良いのかという話をしている部分の文脈から「自然科学関連施設の第三の選択肢」を提案すれば良いとわかる。

大問 5

これも大問 3Aと同様に設問だけ見てもよくわからないので全体を読もう。お話し仕立てになっているということは「いつ・どこで・だれが・なにをして・どうなった」が大事なのでそれに注目して読んでいくことになる。

大問 6

A 問題は設問がそもそも要約ペーパーの空欄補充なので本文を読むより要約ペーパーに目を通したほうが速く理解できる。空欄の該当箇所を本文から探し、要約ペーパーから抜け落ちている情報があればそれが答えになる。

B 問題は最後の問題にしてやっとオーソドックスな長文読解問題だが、これは設問を読んで問われている内容に該当しそうな箇所だけに注目して読んでいけば答えが見つかる。

このような具合に解き進めていくと、私が解いた際は制限時間 80 分に対して約 60 分で回答を終えることができました。

共通テストの英語リーディングは一見すると膨大な量の英文を読まねばならず非常に難易度が高いものであるかのように錯覚してしまいますが、“選問眼”を鍛えれば必要な箇所だけ読んで効率的に選択肢を絞り込むことができるようになるので、是非とも眼の鍛錬に励んでいただければと思います。